

第 19 回 関東甲信越地区技術職員懇談会のご案内

国大協関東甲信越地区の大学・研究所の技術職員の技術交流を深めるために、2022年4月にこの懇談会を発足しました。技術の共有、技術協力、技術研修の共用などのつながりが深まることを目指しています。

毎回多くの技術職員の方々に参加いただき、各々の機関の話題を提供していただいております。開催は毎月第2週の金曜日となっております、お気軽にご参加ください。

<https://www2.kek.jp/engineer/tsukuba/kondan/>

記

日時：2024年6月7日（金）16:00～

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZ0kfuutqj0rHtdx9CGLvnSUxeO-Son2A6Du>

講演

1. 国立天文台 先端技術センター 研究技師 江崎 翔平氏

講演タイトル：「電波望遠鏡マルチビーム受信機のための超伝導モノリシックマイクロ波集積回路の開発」

概要：国立天文台では電波望遠鏡に搭載するマルチビーム受信機を開発を行っている。マルチビーム受信機はシングルビーム受信機と比較して一度に広範囲を観測できることからマッピング観測を効率化することが可能である。従来のマルチビーム受信機では、シングルビーム受信機モジュールを並列に搭載する手法が採用されてきた。しかし、この方法では導波管構造の影響で受信機全体の体積が大きくなり、望遠鏡に搭載できるビーム数は厳しく制限される。そこで国立天文台では、一部の導波管構造をシリコンウェハー上に組み込む超伝導モノリシックマイクロ波集積回路(MMIC)を採用することでコンパクトなマルチビーム受信機開発を行っている。本発表では、国立天文台クリーンルームで進めている超伝導 MMIC デバイスの開発状況について報告する。

2. 横浜国立大学大学院工学研究院理工学系 工学研究院等技術部 森 康之 氏

タイトル：「本学における学内に点在している技術職員の協働意識の変化と業務連携」

概要：国立大学法人化前（今から19年前）までは教室系業務（研究室付け業務）が業務の主軸であり、お互いに業務連携することがなかった我々の技術組織。国立大学法人化後は、学科という今思えば低い垣根を飛び越え、さらに部局を飛び越えて協働し、“人財”育成するまでになった。本報告では、主に情報系業務（部局広報技術系業務、情報システム開発系業務など）と、非情報系技術職員と連携し業務を遂行する工夫や苦勞について紹介する。

次回以降のご案内

第 20 回 関東甲信越地区技術職員懇談会のご案内

日時：2024 年 7 月 12 日（金）16:00 ～

Zoom URL：後日連絡差し上げます。

講演：

1. 新潟大学 工学部技術部 安中 裕大 氏

タイトル：「テラヘルツ周波数帯の電磁波発生技術」

概要：テラヘルツ周波数帯の電磁波であるテラヘルツ波の技術開発は他の周波数帯の電磁波と比べて遅れており、近年盛んに研究されている。新潟大学では電子ビームを利用した大出力テラヘルツ波源が研究されている。電子ビームの発生に高電圧を使用しており、安全に実験を行うため技術職員も実験に参加している。本発表ではテラヘルツ波源の研究開発において行っている業務を紹介する。

2. 高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 荒木 栄 氏

タイトル：「
」

概要：

以上

関東甲信越地区技術職員懇談会世話人一同